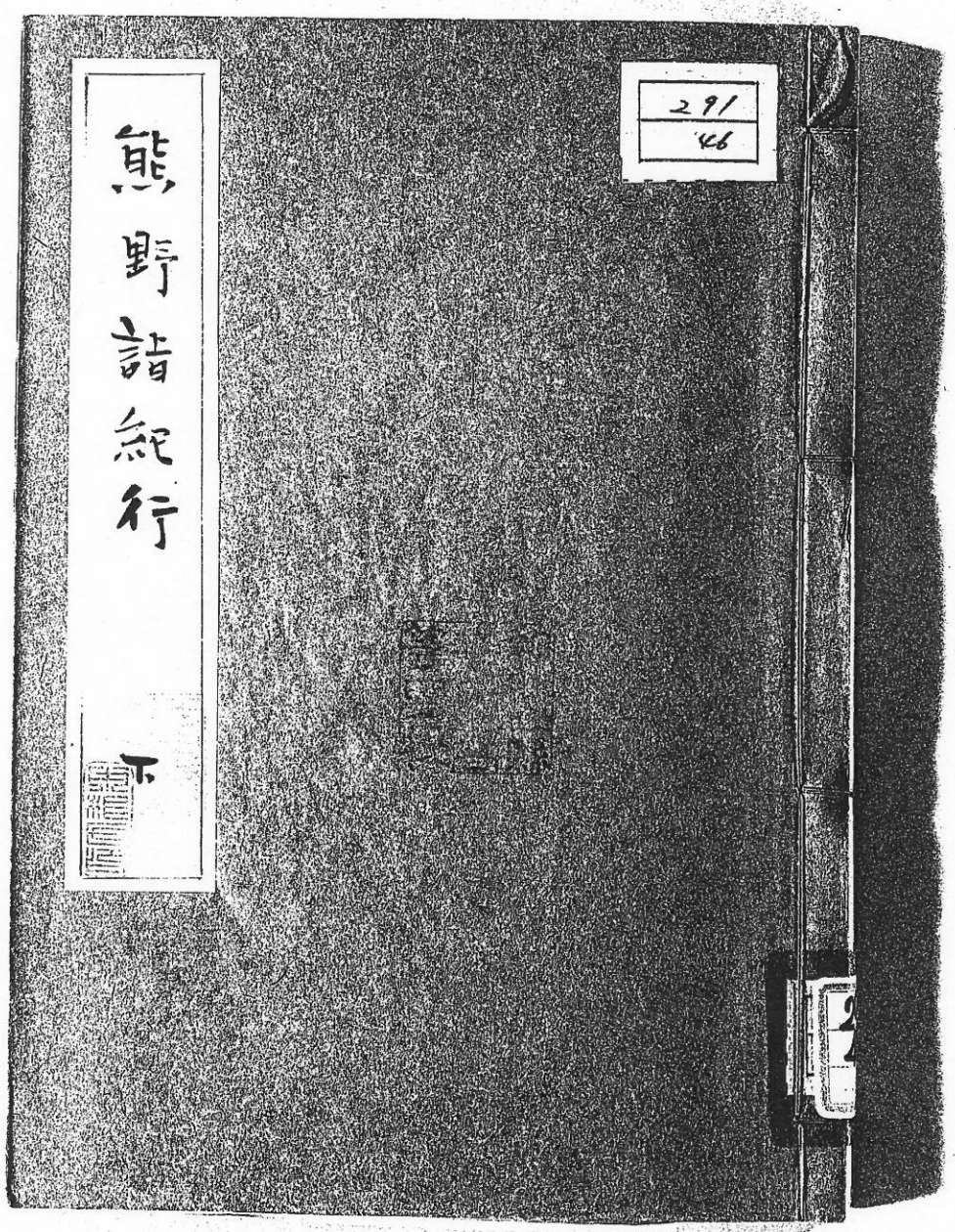


県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03972

291
46
1

熊野行紀行

下

古座高校図書館
28.10.21
蔵書NO. 3972

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03972

中根七郎 氏寄贈

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03972

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

本宮の所　をとゝ川の末なる吉村の東へいつる
此本宮の人家屋根へ石瓦にのし板をおらへおとして
その上を伽き其おもてをさへ石を上にのせたりいまも
大かたいたかへを用ゐ
おとゝ川　源本宮在三熊山より小藤村一帯松村本
宮村を経て熊野川へ入
金峯
御石を吉野川の流れとなれたくしを中にて送れける
傳説
名の木にて来る時高くさゝかり吉野川の五月九のころ
の大洪水

くさのかる音をりかたさけやさくやき物の志の所しか
高橋東、波り すくかかけ、本生御宮かれと志、また
り行西側かる蓋主物不明
今廿八日　蓋主坊　佛燈大夫方止宿
坊数あまたかれと彼の坊ハみなく物の上ま在
を則大坊坊トいふ坊数あまたあり されと旅人の望み
かまかせす国々のわかちあり所れの国ハ やの坊をの
国ハこの坊と定りあるなり那なをみかし新宮ハ
宿坊あきかしや蓋主坊ハ本宮新宮とも かあり 法華坊
とまくハ旅かるトし坊中の人かきけり 牛皮かひつる
の所をるたると更る
神供料十二銭五厘　止宿の旅坊金弐銭弐厘さし 例めり

熊野の内ハ山ハて材木沢山おるかかハかかハ人家すく
て屋根ハ板をおらハおとして本ての世石をおりかか
ハ宿かたこせし事ハて両のふせき基たをく見かこ
牛蒡を坊ハおかしハ信みて おりしかたらかと今ハ
信蒡かて烏帽子大飯を蒡を
翌三月廿九日天気よくなりて先伊社のかたハまとてけこ
伊勢大夫より 神供頂戴 奉こ
本宮　号熊野山 大雲寺
部僧院本地　所権院佛
人皇十代崇神天皇六十五年から廿九年以前かの天災か
て焼失せしとて仮殿也おかしハ新宮那智かたまさり
たる宮殿かて神殿といひしハ 翌行十九間桁かき廿五

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03972

向ありの内に南に大黒天の神興殿六十畳といふて大殿ありしも此度とりはたまいる者み遠宮と也来て兼相
ある仮宮あり　社は辰巳の方に向ふ
祇園神宮山　那智山　いつれも辰巳向也
熊野三所とも大樹国し神おれと少しの異同ありその
如く小祇は那智山に十二所権現を牛社と千観音一本
地仏也
青面天神
白河院三十三度参詣三塔石の塔也
三十三度の塔おれは後白河院かつへし
泉式部十七度参詣の塔
いつれも本社仮殿のつゝき同し所にあり塔へ廻りか

かに多くあり参詣の根人也小石を塔のかたちに積者
あり
満山護法社　八百萬神社
解脱天　八熊権社
地主神社　青面金剛命　熊野権現也
礼殿　仏外略す
熊野行幸ありしい
紫神帝　六十一年九月十五日
景行帝
仁徳帝
平城帝　五度
清和帝　貞観十八年

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

崇徳帝　寛平九年二月
花山帝　正暦三年
白河院　寛治四年五月
堀河院　大治二年二月
鳥羽院
八度
後白河院　永暦二年十月初度　三十四度　上人　三十三度
後鳥羽院　建久九年八月初度　七八度
土御門院　元久二年一度
後嵯峨院　建長二年ハ七年　西度
亀山院　弘長三年
後白河院　三十三度の時神前ハて思召つけさせ給ふ

あせるかゝる雲の峯のかへたつゝ剛て久しき三熱望の月

所かゝレ　変動ハ陸奥ハ　言せさせ給ひける

夫もゝ〜いかゝ忘れん　家をゝるこゝろくらべ　みくまの一月

おかし　陸奥ハ　結ける　老女の　無望ハ　三とせ　給てんと

をゝ　参り　侍りけるハ　返〜　くらしけれハ　今ニ　ハ

いかゝせん　と　歌きて　神前ハ　ふ〜ける　夢の　夢ハ　みせ

給ふけるか

稀わ　ハ　いつ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

遥遠一程　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

和泉式部　無時ハ　参詣　侍りて　参詣ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

式部

時雨ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

とおん稼していねたる夢か

えとりて ちかまけ 神おれ 月のさけ に行かくるーさ

音無瀬　本宮の神をいふと也 歌か

おとかの星の秋風 夜と宮及 左のひれ くや 永ゝつらん

此本宮の所か 行の 坂とて あり 牛所おかー 条 春日宮の

間で 越ゝ 時の 号とて ちる 毎月日より 熊野へ 条 春

出 宮の 所おれとて 牛所 ー 過りつかせられ ー 也 日本

小 国社 太夫の 文といふ 有 ー 也 いとま 乞 て 帰れ

えさせし

小 兎山 坂の 道本宮より 二十丁 計 南 有 馬と云 本宮 田 神

神 ト云 社 又 日本の 宮也 ト 行れ 侍く 所 也 伊 勢 神 宮 参 拝

し 所

猪 神社 と 拝し 過 て 坂 地 大 文の 坂の おたばちより 音

かー 大 塔 宮 田 の 三川 合 宮 ヒ が 淵 と いふ ひとり へ 出る

牛所 熊野川 九 里 ハ 丁 下る 舟の 乗場也

音かー川　古 部 荒 かち

宗田川　古 歌 ホ

いかた川 条 谷 川の 山 宿 合 て 百 瀬 かかけ る 瀬 と なる

思 ひ や る 神 ゝ 比 丘 尼 宗 男 川 流 り 来 れ ー せ の 白 浪

この 三 流 おち 合 て ヒ の 淵 と いふ 是 より 下 て くまの 川

と 云 九 里 ハ 丁 かり

熊野川

従 身 明 院 所 蔵

熊野川 下る 仕 せ の 文 おれ 搾 さ す か 文 れ 為 流 の かよ ち ち

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03972

早川より言れの時、三時で迄十一て新宮の港かいた
る牛角左右けけき山ありて名石名滝かとかはくし
ておりて　ちき山の角ヲ伝ヲ　川より川物一ヶニヶ所
所川原の如き真砂地ありてその所ヲ於りの舟かとい
川ゆくより本宮より新宮のかたハ東ハあたりヶ少し
南かたより
順神の強田といふ少しちかいか
下り船一般有り有島日沙居文也

大峯ヶ三段のかれ山ヶ舟人かく
かたりしが少し言葉わかりわ

小雪取より下ヶ
ヶか
大つが村
げんせいのふもと
出ーろかたけの
みちけ石有ろとい
ふ中にけしりみ位し
泉の名石ヶ一退治
し神ヶ一たりとし牛角
の名石ヶいかほく泉ヶ
退治し神ヶ前ヶ方ヶ
みよせたる名有り

和角迄せよ　ちかとさこと
かたヶかれと
聖護院大峯入の時行場
のときの一川より一ときて一ヶ
一けふ
ヶつが村
仲すき家ヶ
一帳の仲数ヶ校有角也
方ヶ六十軒家ハけとい
仲一帳の数ヶいひ一ヶ
ありより十ヶかこの仲数れ
ハ十軒ヶ方ヶ一帳六十軒

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

鬼の手かけ石
かの鬼とゝらかけ手及びて手
をかけしとや
東鬼屋村　鬼をかゝき
たるかゆゑこの村の名あり
とな
佛岩
牛ゝ
梭現社坪用石場

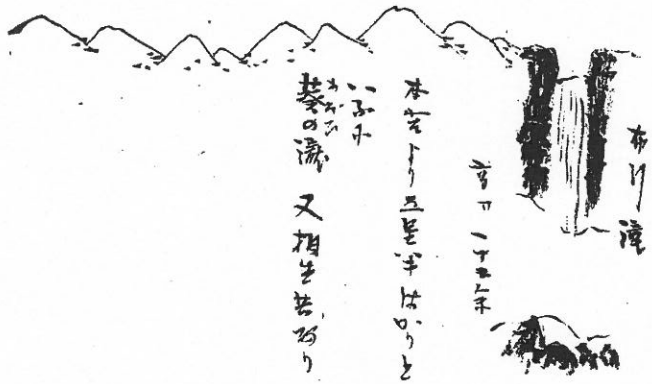
ありとな
西鬼屋村
牛鹿川水小流る
八畳岩大石水中にあり
志ゝく山
牛の下と左か
俗美石有

おとが村
本宮ゝこ星芋
志こ村
聖徳院坪殿あゝ
かいもち岩
水きけ水ちり
日巳村
牛所九尾八丁の中とい

川合村
早の明神
木合村
小船村
牛所東の魂ゝ原ゝ
川ゝ会流する本ゝ
梅村村
東三十三間堂棟木の平太郎
柳のきり棟ゝ堂建たり本尊
薬師佛ゝ頭面山平癒者
と云ゝりと丹くかたりき孝行
無比の孝ゝこゝ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

遠賀石
いの志、石
高サ六尺四方はかりの
石や
丸山　三本松
たかご村
布引滝
高サ一丁ニ餘



布引滝
高サ一丁ニ十五尺
本宮より三里半はかりと
いふか
琴の滝　又相生ともいへり

あけ村
作平明神　鳥居長サ
石の井村
無憂力石
博奕石
鐘いし
亀石
のこ村　景明寺　牛窓と堂
宿したまふとや

三重滝
山本集
水ふつる高岩つみて流れて
心すみぬる三かさねのたき
此辺いとそれ方のあらす那者
の手や

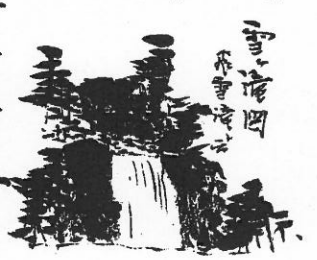
県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

あびき滝の図

あびき岩
すすかん川おく三四十
間あびきを見まかり
岩
おとこ
男石

女石
十三か村
泉のほねい
長田村
仙人の森
釣船ろう
ちどり
猿ちどり
叶五たこあび
鬼のわたの陣
清三村

高田村
ねこ石
まかけ石
まかいた石
泉のさし石
またいた石さし石ハ二ツの
石すきすまかぼの上かきを
とめせたるやしのいーせ
つりかね石
鼻低石
ひるーまの茶臼石
畳石



雪ノ滝図

雪ノ滝
高さ十六七間と云
滝のおつるけーさもらくとして
さみかり雪の飛かぼーと見まかる
事傳かくわーいどしされたる
たくかたちのみをおらけー雲せ
志ゆ水の滝
成瀬村

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03972

下のみるかの角のうたみ
少将日侍
みくさのこらはおひしまり
はまの島神の社事まこぶ
四月あり

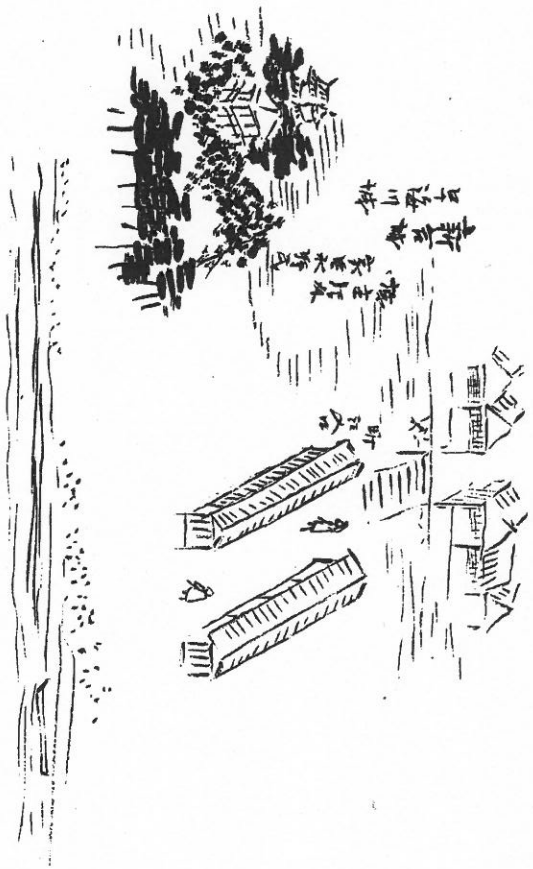
御船島
大木
そこのせかの樟さしてみるかの角
神のとまりの事ぜせけん
この島い川中左の岸みそこて
なり新宮神垂かい神船出
一件島でめくることせ

牛の島社
いかり島

是より新宮の陸舟着あり
新宮之所　三船崎、一里半　那智、四里半

東ハ海近く西ハ山つゝきたよりよき大港なり新宮
四辺かわとらず家建つ長かり屋根瓦にて葺かず板き
かゝ一ありひゝくれ板をもきその上ニ石をきかゝ
又ハ三寸かとわるかさ、小石をかゝ多く置たり角か
しきの家の妻ハ破風ニなて堂のかとき事也
板葺之事すべて能石をつかくの如きかれと定ケと日
出ハ海ハ前の川より上りしかハ川東ハ一陣四の
ことく両側人家たきくかり家のかく建てりかゝ百人ハ
ほく猟師とあり
今三月廿九日陰日天気よく
この所の蜜柑かゝ
島屋兵太郎　門方正宿さ人　弟久　松宮

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972



此堂ハやはりさきなれて日と言けれいかゝ及のくら
へ子ゝず宿より四五丁許南西のかたに馬場さこゝへて
少しあく山のふもとに今居あり二丁おりけわしき
坂をのぼる坂中右のかたに御茶堂あり

神宮山　新嘗祭現

天照太神宮合下二神ヲ祭ルトモ云
本地薬師如来ハ一ヶ金剛寺と号し象神ハ八つまひ
らかゝるち竹熊毛の牡ハ伊弉冊尊朝し給ふ地ヲ北ハ此
尊の御陵ハ今ハ有つゝんと云ふ説非あり
神殿ハ大なる岩ハ其岩ハ堂を建かけたり此堂ハ
拝行十一間梁行六間彫物あり
左り墓五基かと云さもあるへしこの岩を倚ハ不動岩

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

とし第五といふなり
一西觀音寺第明王あり中央に第かり此岩堂のこし
石へおまつ
廣所かて申の時より人おそれての反ゞすいと叫こ
く押さたり堂の前おろ掛手かよりて孫もれい眼下
か新宮の所まと南ハ海邊おり景色いけんわたり
夢の人家より大星天の地獄を出す　左ハ岡あり
[illegible]
みくま地、押くら山の名たゝみ　入る太刀又は
上りつめても猫ゝのうか那
ゝとの多井の所かありて左新宮ハ中分居ゝ手
町けかりゝて左りか

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

東半堂　　中つゞきハ
妙心寺　　寺より せきき所の中ヶ四五町をあけハ
新宮朱雀表　　前ハ大ヶ谷
左右ニ制石あり 銘ニ曰
人皇十二代景行天皇　　禁殺生 機恩
五十八年ハ建又五十九年ハ有り　下馬
鳥居門ニ入ハ右傍ハ牛王かいしつの判かと積る
所あり 御所稚野一寿奉仰寄より 摩門まて 唐々や
十二所権現　　両社ニ本地　薬師如来 観世音
草根集　　中原師実 胡侍
又降り拝せ殿を又の沒の浪ハ ちかき手本のかたとき
十二所とは 東ニ向や

宋持宮　　面之尊
飛行宮　　大ヶ三道尊
稲積宮　　法土恵尊
一ヶ所合殿　　堂神法尊 国狭槌尊

子賀宮　　葦不合尊
児宮　　彦火ニ出見尊
聖宮　　瓊ニ杵尊
稚世宮　　天忍穂耳尊

若宮　　天照太神
諸誉殿　　国常立尊

下四社ハ

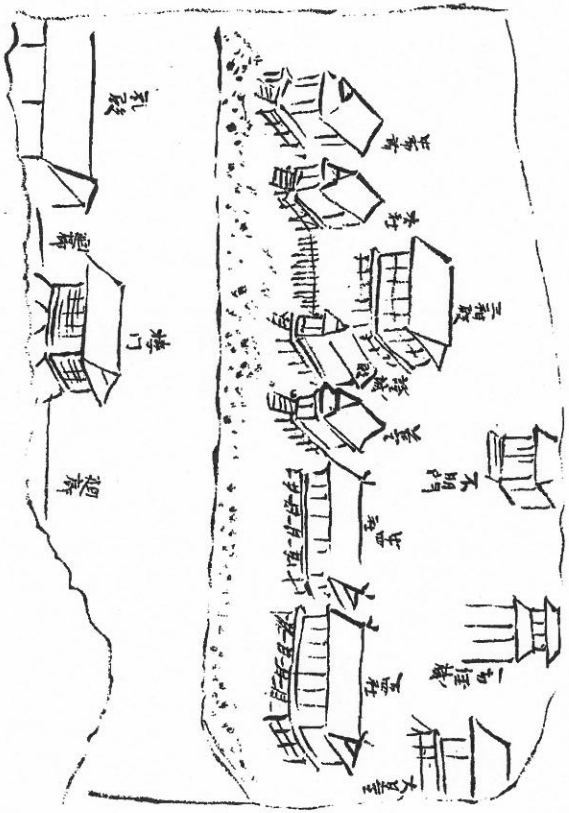
中四社ハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03972

本社結霊宮　伊装冊算
末社　伊装諸算
神御前

以上十二社伊装冊算でいて本社とす
伊装冊算かゝわかりし給ふ国かるゆへ山伊装諸算
かゝつて冊ふ在せ二社を両社といふ本地薬師佐来観
音習合の説あり
此両社の猶大者をそらせ給てあとのきたりさまよ
のつれを異おり此内かの十社おを表ハつれのかたち
おれと同し時代の古作と見こと見事なる猶大なり

樓門　随身も古作と見る
伊蔵　大日堂　三神殿　満山護法社
右ハ十二社のうちつれあり


天照宮
本殿
本殿
本殿

礼殿　門の後に観音あり

権現の釜

両殿のかたはらにある大釜也謂はきかす

神船舎　神輿舎　鐘楼　神馬舎

本宮那智の神馬に木作りなれと新宮に多くの事ての神馬なり

此外末社著多くいつれも記事也

三月晦日則ち雨ふりかゝらぬ出て徐福の祠に参ぬんと

わく道ふ

飛龍社　宮殿下に神さびたり

新宮の摂社の下に

秦徐福之墓

此墓熊野地と云處の田の中にあり土人稲やぶと云

今に社あり　石を立て銘あり左の図の如し

名勝志曰

後漢書東夷傳に倭国部曰会稽海外有東鯷人又有夷洲

及澶洲傳言秦始皇遣方士徐福將童男女数千人入海求

蓬莱神仙不得徐福畏誅不敢還遂止此洲

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

性背東海瓊華集曰世傳秦徐福市上書始皇請供童女五百人入海求三神仙不死藥乃浮海島道留不還即和歌山熊野田神社是也或曰紀州熊野未見之熱田者千穂嶺祖浦出平沙上前殿碧海賜銘石碑天安際宿平神仙樓

文那倩書指蓬萊者於日本有二三所一曰紀州熊野一曰駿河富士一曰奥州塩田沙門也津[illegible]海入明明太祖問徐福事津答之以待曰

熊野峯前徐福祠　満山葉草雨餘肥　祥光海上波濤穏　萬里好槎自須早帰

太祖和曰

熊野峯前血食祠　松根琥珀艾應肥　昔時徐福未仙藥　直到如今竟不帰

此所より海道へ出行所者へ少さ一町ばかりなり新宮の村へ過れり

廣徳寺村　至屋ちゃ村より海辺へ出れり

一里半　是より左へ東南の海おら磯也

浪の音ゴーゴーと聞へ山也新宮より那智の方へ南西

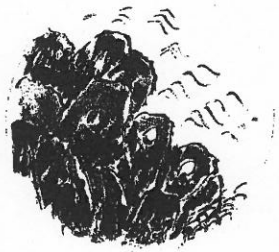
みちたり

みたらの宮　海辺すへて松原ありて左へひくきゆせ

天狗たらの三たらたりと云

下圖の如く

おとろ磯ハ岩なり



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

其雲ハ三郡たらひの如くくはかゝる所ありて奇ハ称
あり汲干とも後より又あきいつるとも云

佐野左三輪塔　今之井ノ字

三輪か時多汐させハ村千石付ゆのあたりハ声ゆ高。
大ハ歌ハ松葉長ハ大和の名所ハ入り又ハ近江と云
此ニ国毎引ノ多汐させいとおるハ此所也
景よき松原みたらひの海ハ同し左ハ東の海方ハひ
くき山ゆり城海辺鎮取の船多し岸ノ上ハ霞かけゆり
此船行れて唐ゆ丹白みゝいとりたり又ハ雲かけり
海さん。子見ゆとる歌ハたはこをを又ハ鏡ゆこ和美よ
りは三輪塔の町ノ入人家ハ山ゆ大時ゆ也ゆ有人ゆ
り

茶屋酒肴ゆり大さかて色たる新名物ゆり
秋陣ゆ　牛四ゆいかゆり

蓮華草

ゆゆり船秋陣の傳ハ撰ゆ上ゆ思ふ妻人とゆ傳つそゆく
さのゝ宿　松原多ノ人家街道より内ハ有

陸　輪

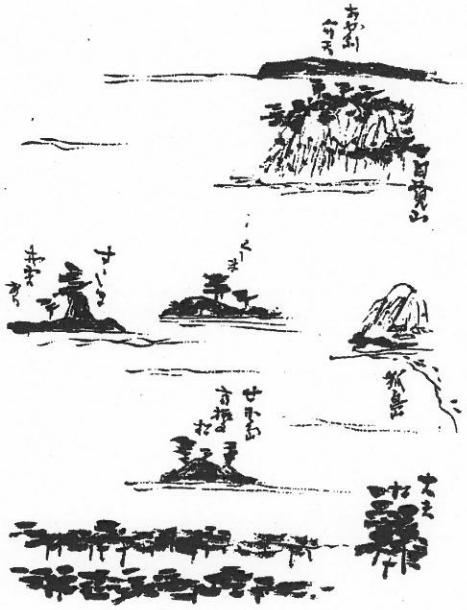
頃ハつゆ月ハ月ハ見陸せハ松原とはくゆ何白き
秋毋の宮ゆ朝はゆ佐野ノ岡ゆ月ハ月ハ雲ハ衣ハ
佐野茶屋の宿　那谷の里の石ハこの宿ハ有
此辺ゆ人ノ無ゆ傳那谷の宿也

古歌

はるかゆる那谷の宿ゆ遠きこそ傳と海とはそこ乃こけル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

一星塚　二位尼の墓なりあり袖すり岩通れハ今之中村の松原也
右ハひくき山左ハ海岸にて也景色よ　左ハ図す



日貫山おろすあしのはけしき其根の巌たく敷けり
又貫上人の事と云
熊野陳ハ平家の左の向景を保ハ多く東海也
少し南ハ請る所也　くまの陳の古事有れハ家か
七ハ
陸絵
みくまの陳の底ふいくかくりをかさりて家きぬらん
歌号
かけすくるも法き宮ハ　みくまの陳の玉屋の光ハそまつ
六根の松　せハ命ハ　ハ　合こ拾りあり
大天の松　今之井ハ　入口ハ
牛松ハ　松也平ハ盛　入水の　時藻ハ　牛松ハ　かけ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

置しとや

佐野左衛門丹村　濱宮、一里　く家両側につゝき大道
ひろく富あり奇業ハ見ゆく家の内大道ハ石敷せ侍
さはのあくろつくり、
つくひちはかれ土井郡美より引取りか郡こて設ル
きはゝ下り又かくしゆかり
ハくじ峠　上下三四丁計
大くじ峠　上下五六丁計
郡ハくじの川の海ゝ落入る所の濱辺也
くじの川　幅三間はかり石つたにかゝて渡す家より
那賀の下馬まて陸地なり
あかいろ村　左ハ海大い岡山也畑あり

郡美を濱ゝ手俣里入水せ一家と也
詞也
いまそーヲ孫陸の誓のあかくして浪の上ハ〻進ありとハ
濱の宮　那賀一里半
濱の森　濱の宮の森をいふ
神陸沿寺
古日所ハあり本尊薬師音額の銘ハ御陸沿寺とあり
是より海辺ハあら丁天満村といふて左ハ見て行中辺
富ヶれとも下馬迄の間ハ那賀より是を御丁郡ハ日の
内ハ富をあるさがをのつかから那賀の切ハとゝまるも
るかあかけたるものも夜ハ入て御をいゝハ富をあと
也

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

川内村　茶屋あり　富有の国し　富山迄し　左へ山のこ
おたか川原が見て行谷川石がつたたと見たる所にて
所板は一ヶ所也
那智山見かれとも此あたりかを雨夫ちりかを州出は
れい前後とあかりてゆく
井内村　人家多し茶屋あり　富有の国し　極石あり

右　那智山
左　熊野法山

此村を過れて市野の村也
市野の村　人家まばらや茶屋あり
此はら大なり
去る天明八申年の山つなみと山らんかて人家巻く流
れ人とせ山人形かおばれてかしけるかこ、かこ

あかれて今い人家とおかとりすくかといふ
二の陰の村　長十三間　幅二間半
此過より那智の下馬所かれい村の名の如く下馬へと
よふかいやはり市のい村なりと家人かたりや人家
屋あり
那智山　ゆ清水寺
一三基表　来切也　坂の尽りにかあり
是を一のとりゐといへとも二の鳥井とて見へかか
下馬　禁殺生禁酒　おかく左右の石面かにりかあり家かあ
て
ふりかせの橋　長四間餘　幅弐間きぼし　中仕
家より大門へ六丁　大門より滝へ六丁　滝より御社

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

観音、六丁位社観音より　ちとの大門、六十あり
本社の地より　大門の地へ　ちきく　大門より　浅本の地へ
又ちくし　牛ふりがせの橋より　けあーき坂を　六丁まが
りーて　登る道の　信州の橋おりーて　くるか　安石あり
大門　二王尊　楼門也　案内
参詣を　勧たり　勧る日
日本第一大霊験所
根本無比　三所権現
宮より　浅へ　六丁かく道　社観音堂へ　ゆく道　いつれも
ひらさたる道可　三十六坂　陸奥　建たる　所なり
一ちくおと　言きちくきあり　いつれも　坂へ　けらぶき
三十六坂　今の　廿四坂の　道きすと　いふ

今晩日新宮より　雨ふりはれと　出湯の　宮なと　おせへけれ
間かりーが　川向迄より　大きーに　おふる　ゆれつ、那智の
坂かつきたり
富山　大坂の　有坂　宮方院　孝節の僧也
牛坂へ　南御かた　市　空敷へ　出けり
かきはたおと　別れ　風瑞　長寿寺　へとく　第一　看られ
たり　今宵より　三夜間　牛坂か　逗留すり　雨未　もり也
四月朔日　雨も　少しおやみと　見へけれと　坂の　案内かま
せ　海を　すーて　行く　京中を　通り　坂の　木かげ　物すごかり
ゆ　所をかく
日本第一　御験　南のかた　一覧
御宿を　即飛　演樹　と　ゆ　基　本地　十一面　観音堂　浅本

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

かゝり

滝の幅八間許さ百五十間余い百丈余い百間と云實で
ある事かたはす明のきさつて寸さきたり見係が事
さけりあり　と給へ間り

文覚の滝へ茅滝より深山に入る所を云せ
明の下の口印ある所なり

滝の古歌

雲かゝる那智の高根か長吹ひ花ぬきくたす滝の志ら糸

雲まかゝる那智の古根か長吹ひ花ぬきくたす滝の志ら糸
おなじ世ゝ柳さくつたけたけと云ひ滝の志ら糸
花たきつ山ゝつたをゝ那智こもりさてさこころいそ世除らん
こゝかゝるおちの滝つせ名ゝけいなき軒けかゝそ数ゝ
かさねておこれゝ大一ゝ人くまのゝはまあらくれの那智の滝つせ

滝の前との古歌ほら墨石つりかね石とてあるよ
滝禅定ゝ十れゝ茅山陰ゝ三年の間こもり侍ゝ庵室の後
ゝの滝ゝ三の滝あるよ　所悪く遠留ゝ　かとり明ゝ
西ゝりけれゝ稲穂ゝけけさりしゝ
稲穂古張かとゝ西ゝ　俗説ゝ
ゝの滝ゝ高ゝ三十間許り　本社西ゝ二十二丁許
三ゝ滝ゝ高ゝ十間許り　本社西北二十五丁許

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

是より六丁の所に八幡宮あり其門の前にわゝ[illegible]石階
あり切石をもちて畳みたる石也
其門　随身至て古作と見ゆ
本堂　檜皮葺　東に向也
如意輪観音観音菩薩の本地也
縁日　大さん[illegible]孫一五日
けうく[illegible]寺といへとも同帳とていはゝ前立の仏
りもられいたゝ[illegible]厨子の内おかみ寺と思ひけるに
山とさ前か[illegible]ゝ[illegible]て同帳なりしは[illegible]
くあるべけこゝ一寺といとゝありがたく覚へけり
富山の本社　十二所権現並地主神を祭る社
第一　地主権現　大己貴命

第二　諸誠殿　同第三殿
第三　申殿前　伊弉諾尊
第四　第本殿　西殿前　伊弉冊尊
　　号陸宮
　　自第二殿至第四殿無殿三所権現
第五　第一王子　天照大神
　　以上第五社
　　右五社八辰巳向以下八社八丑寅に向也
第六　禅師宮　忍穂耳尊
第七　聖宮　瓊々杵尊
第八　鬼宮　彦火々出見尊
第九　子宮宮　葺不合尊

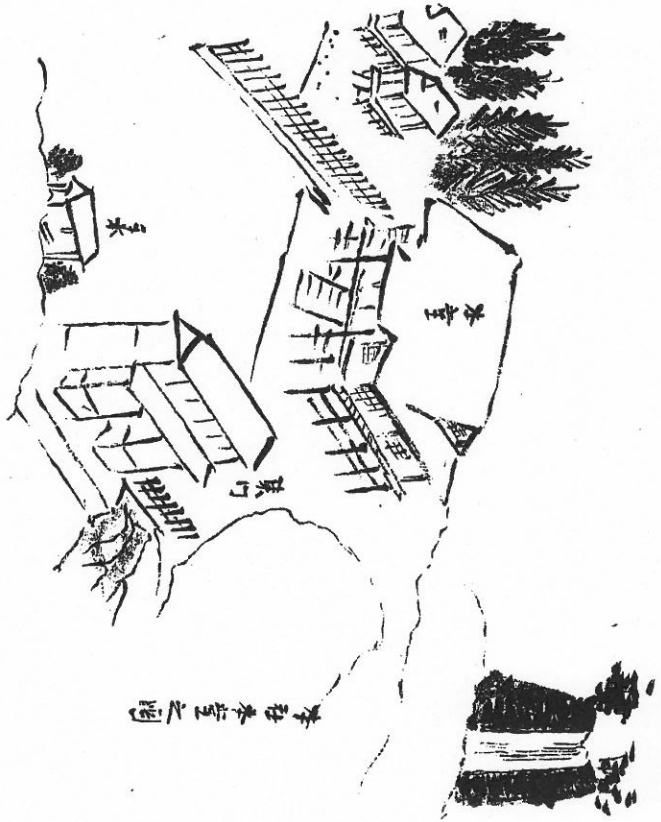
県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

以上自第一至十五番霊場五体地獄
五代也

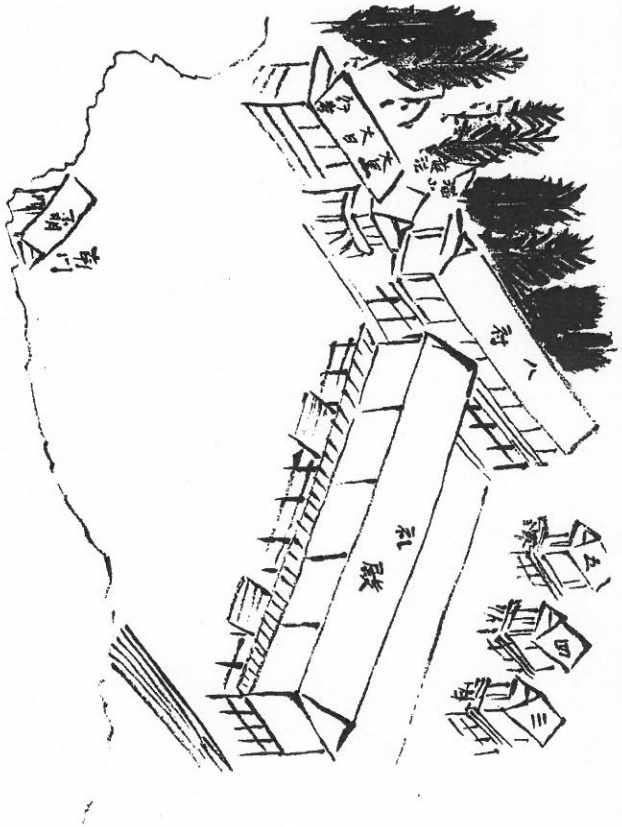
第十　合殿　一万貫　　聞雅土尊
第十一　勧請十五所　　泥土真尊
第十二　飛行夜叉　　大戸道尊
第十三　不持金剛　　剣尼尊
自第十至十四番五所如稱

満山護法善神社
大黒天　大日如来　　従行者
神三社鎮座の如く合殿也

所々に面白きものあり信者はけ口数方角をこわかりが
如諸社諸堂は略すと雖も神社されしこゝかもらしは



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972



那智山縁起

人皇十二代景行天皇御宇熊行上人とて権化の人あり初め神倉山に居て修行の砌ひつ又後ろを見ずしこの那智山に来り給ひ仁徳帝の御宇かとて凡七百餘年経て胡ゐの滝の水に身を浄め夕ゐの岩窟に坐し修行怠り給はず時演壹上人八才の尊像顕れ出給ふ御禅形上人御手に取り給ふたかれとり其頃いまた弥勒か仏法弘まらず十一面の像といふ事云ふ人那智の本尊の地蔵の菩薩を造り奉る権現鎮座の後に禅形上人滅し給ひ時の人に菩薩の砌に安置へたり其後聖徳太子より仏法ひろまり生仏といふ人宿願の事ありて権現の宮殿に通夜ありけるに夢中

かなて曰おかく　弥富山の滝壺より出ける　の尊像は如
意輪観音也今拝堂の路ふ石を重てあり
柳弥朝の御陰沿山といふ　外山なり　観音の利益ふ越
つたへ　牛山は本朝第一の霊地なり　いそき牛山を帝
へ奏し一宇を建立し聖主天長地久の寺とかくしと新
たふ憲梵を蒙り急き帝都へ奏し奏しふ帝則本堂建
立し後ひ仏長一丈の尊像の如意輪を造らせ給ひ紀滝
より出現の八寸の尊像を仏胸の中ふ納め奉り本尊と
し後ひ代々の帝仏尊敬あさからず

ふ書曰

延喜式神名帳ふ本宮新宮と載て那智を不載本宮新宮
ふ祖宜祝部有て那智ふ　所門侵梁塞の文ありて御宜

ふ　敬れい後也浮屠武観音菩薩の後権現と顕替した
るか又那智の由記ふ孝安帝三十年孫形上人初めて建
立し其後空勝上人即善上人相続て十二所の伽藍を造
立すといへり
牛頭天王伝ふ　建いすいかんとかれい孝安帝の頃
仏法未伝来上人与ふ　へからず其外社僧の伝記まち
くかれとり皆信ずるかたらず
弥山注釈牛山ふ　弥勒菩薩の時の御製ふ
木の下ふ住かとすれいおのつから弥見る人ふ　ふけ
石はしる滝ふ　那智山の古板を見れい弥の去り雪
月雅集雅ふ那智山ふ弥山陰の仏菩薩の有りける上ふ
板の木の祭るを見て住家とすれいとよませ給ふける

事をおもひたせられて

西行法師

木の下かげ旅を見つるは那智の山根の花を素なし

西行法師那智の滝おもて上る時か

身をつゝむ言葉の子をかけ花心すみぬる三かさねのたき

後鳥羽院御製

又たこひ那智の滝山の滝月の清き宮りか杉をそこく

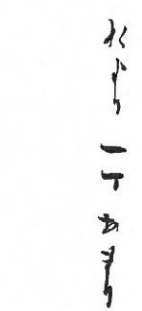
那智山逗留の中四月二日の日西ゝしかやゝ見へけれハ

妙法山へ参らんとて出おく大川の方へハ出す大辺郡

道と云興のかたゝ登りおく牛山より妙法山へ南の

かたかたたゝ切り五おて行へ出家者あり餘者そ

れより一丁あまり登れハ木ハ書つけて立たる標あり



廿五丁登り行く道より左ハ那智の滝たきく見

ゆ也道ハさまゝて谷所ハいとかハあらあとを廿五丁の間

ハ茶屋ハ多く登りおくの人多れハ心安き道おゝ才杉

のかけを行く所多し間道ハして右の山かそひ行おり

右へ谷を見下し行妙法山近くなれハ道のかたはら

ハ櫻多くあり牛きき人の事ハいろく説あれとあ

やしとするハたゝ才たききハ牛所ハかきりす大雲寺

の那智道き所おゝあり

妙法山　阿闍陀寺　本尊　阿闍陀如来

牛きハ牛てたことくく思はされとゝ僧ハ女人の方

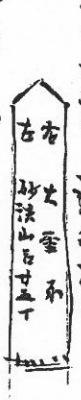
堂とハる山ハ女ハ無堂ハ詣てんへハ尋ねとハハ山所

あり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

牛窓の港町なり
くまの港なる事なれと是ふるよ所なの山路と思ひたらせん
本堂の右を奥へ半町許入行へ左の方に慈照上人墓碑の石あり此石を鉢のたしと云上人牛窓より遠南海の廻船の帰路をこゝに待ひ所なりと云道の右かへ上人出城の入定の所とて石碑あり又少しおくへ中けへ
弘法大師堂　おくの院と云
極楽院の増い　大師堂の前にあり人を本堂にて極楽の法名を書たり　と云かさめ水を手向るなり
四月三日いまた雨けれとも那岐を出る風瑞石寺を右て今朝出た行方のかたへ行くとて別れぬ

かのくたの郷へ帰る人とて大雲取へ行へ雨もはれ間のあるきのふ妙法山へ中きり道にある



此木のさたる所より右大雲取へかへるやかはの川迄四里やこの橋木より　左右草木さけりたり　橋ゝまへあり
右南茶屋多し　左右茶屋　加屋くらあり　いくらり　酒てこ
ナ丁ほけへ茶屋あり　酒てすれと板間もしろ敷かりてい
さ
船見峠迄廿五丁　茶屋より　法花寺　左右　さけりあり　茶屋多
し　船見まて人家あり
大雲取船見峠　かいしち茶屋へ四十五丁　茶屋一軒
あり　一ぬり　すれと板間にろ敷かりてい

宮より海見ゆる所あれとけふは雨ふり水気立ふさかりて見へかたかりし

是よりして又人家絶てあり道の向ハ前の如くあり　ニ三本の木をかゝゝたる橋を二つ渡て若松の宿はありたありすゝて大平原の向ひ深山かゝりて高さ一里あれはいく家か遠くみゆるあり　たゝ一軒茶屋ある分かり

大雲原かゝりち茶屋　大雲の中ゆり　如藤茶屋、ナニ丁計

かゝりち茶屋あるとすゝるとて板向かはりろ敷あり　此さ一丁あり船見峠の如ゝ　ひくくれと大雲原四里の中那ゝ　二里の高あり　又二里あり

是よりして又人家なく若松かゝりたる木ニニ本かゝりたる橋を越へて

大雲原地茶茶屋　石くら茶屋、ナニ丁計　有　すゝ

ゝ　蜂蜜をとる前ハ石地茶多くあり　さて有　実より

ひく若松かゝりたる人家多し

大雲原石くら茶屋　えちぜん茶屋、半里　実より

下りて登りゆく道けわしく岩ろろ　土橋一つ渡て

坦つたひ道行く

えちせん茶屋　小ぜ川、一里橋ゝくほゝ　せハ丁計

此茶屋より　下りを胴切坂と云

大雲原胴切坂　此坂ハ峯つたひ坦つたひ一文字の

大下りあり　松原あり人家なく　右ニ丁計下れい

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

出茶屋あり　土間あり　茶人あらじを作り居る所より
　　右方木ふかき所を曲りておよそ十丁ばかり下れば
　　柿の木のくぼ村　　おれ川、せこ十計高多し小ヒるりといつ
　　けりて探くさとさつる
　　牛村い山の坦みあり　村かーと称地なく　人家一軒つい
　　ひらきたる地なれい　一軒通れい板を下り　又一軒通れ
　　い板を下りすること十五丁ばかり　人家いつれもた
　　の山かそ広てたり　二軒と信きたる家なり
　　（中根熙著日　牛村と長井村　又い小ヒ川有るべき云る
　　り實酒したるあるべし）

　　逆道といふ間い
　　ニ三丁の間あり
　　左り本道けけーく板をこニ三丁登り又より又坦道十六
　　せ丁下り行い　石堂の茶屋あり
　　小雲取石堂茶屋　　松はたこ世ハ十　さんのたれ茶屋
　　牛蒡小雲取三軒の中かーて板茶屋より　地ひくし長よ
　　り七坦つたひのぼり下りすくて松はら杉村しまい　あ
　　り又雲取の道よりまさりたる茶屋ありすてハ下ま
　　けい出茶屋あれとも牛時い人もあかりき又より十ハ
　　九丁ありけり　松はたや
　　小雲取松はた　　山中茶屋とも云うけり、三十九丁
　　茶屋あり　前まする　一や重よりも坦つたひ松原あり
　　杉村清水のたけりたる所もあり　の左り下り志けくし
　　い、うけ川村へ下る

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

うみ川村　人家多く大なる村なり村の中ほどを川を云なり牛村へ入ること行ハ小川なり水きわへ下りて四間ばかりの板橋へ出し村の内少し行ハ

うみ川　本宮へ廿五丁湯峯へ廿二丁

川幅四五十間許なり川原あり　おかこの峯渡ル舟渡し

夫より湯の峯へ一里なりといへと本宮へまけりせすくホけいせこてなりせてはかりこせなと云事なり

うみ川流れてもやはりうみけの村なりて家多く宮よりハ右かわ里ハ下の熊野川を見て所々ハ切くたり

りあく村なりて北より川原へ出たるハ行くこと

ニ丁ばかりなりて本宮ハ

いたる道なりと湯の峯へ八十丁左の山へ登り行山の原まて本宮を見やり川原を見下して雲取なる歩

なき絶面をせはること　ことき道を五六丁登る岩かす道

をてせまりの中ハ山の石なり夫より湯の峯迄大

下りハ多く平坦ことき道のおほけなをも少しつ

のけはきたり所々岩角ハ多く道幅ハすくて

険岨の地なり　右ハ山なり　左ハ谷なり

下りて多く小橋数架まて人家絶て

よこせ村　うみ川より二十丁湯の峯ヶ二丁

無理路にきへて横倉なきなる大小二通りあり

かたちハ国の如し　年ハ大なるなる五かさと

いふかなるをふかきといふ小径大さ竹の皮のさ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

の如しこれいさい大さこと計や牛蒡の事にて、あて尋ね
しお賞ふ者！おけり
実ら樗のわさふあらすしてかいぜいといふ本草にて
しらべたりとや

無毒脆いすくて「櫻茅」と名むかませるを用ひる
本の葉かつらの葉かと差て問ひ知くたはこを
つけて口かくはくるかり往来する者さまいと
かかり上かたあて用ゐるきせるもしましふ
い特たるくあり如にもり如こしかと上ふきせるもて
たるくあり一かたつわいそのくるこていふ山
かせき農作ると下る時にきせるくはゆわい咽喉かと
穴事とあいんかと名し一つふい薬あて者時に味ひよ

しきせるあてい味ひ一ことかたらき
さてのまこせ計より来つたひか咀つたひあて湯の
茅かいたる
湯の茅　湯川、二星茅かきはら二斬茶を、せて
今四月四日　天気よく牛蒡の
清水屋止宿一人　外名五分　旅籠せ
牛蒡い湯の茅といくとしまくとか深山出茶とて嶽き
茶名の川の東西むかんあて人家ごとからべて入湯の人
の家が世の業とする也川の東むかいに薬師堂湯舟芽
あり川の西むかいふい二名の接ると有り
薬師堂　南向　薬王山東光寺と号す
身月百廿四銅あて開帳せ一か湯の花自然と石の如く

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

いたすり藥師如来とありたるとて いと殊勝なる仏像
也 此さいの弘法大師の作と云
二重の塔 長三間 飛騨のたくみの作といふなり
さべし
藥師方便の湯とて 牛谷の向すぐし湯あり 岩川上
より小水かゝりたる也
湯舟とかたちかまへたる所三所並ぶ東へとめ
湯中と西とへ入込湯なりとは湯といふは一人一回の
湯料四文宿にて鍵なりて入見んとする時
鍵をとりかへ餘人を入れず 陣の内有馬の藥湯といふ
と書かはれとも高い同し湯なるゆへ入込湯へ一人の
湯料一日ふ馬目六銅なり 旅人の一泊とすれハ二人馬

日三銅なり外に [redacted] といふ所より是へ毛銭かて [redacted]
[redacted]の類ひ来へ病人入へき湯なり
川の中傍に一所壹湯とて井筒の如く 水わき出みかこ
んたる所なり 其所か竹の子其外菜類由て物へ行ふ上
らさつけ置ふ暫ふしてゆたる事なり 食方の粥をこの
湯なりゆてたるより富の下せかたりけるをきいてこ
ゝろ事かりしも
物へ湯する湯舟へ湯を入るゝへ谷川の下より左ふ詰
す湯口の如くして上へくりあけ舟上より流れ来る水
を覓かて とり湯と水と自然とまゝ入合せ入口よりく湯か
けんふなり 又覓をつたらて湯舟ふ入やうふ出
かけなるなり

壹湯口壹湯の此是より壹湯口是へ流れる湯の色一日に変りて
黄色赤色白色の湯口の湯
留なり

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03972

此谷川の中湯のわきいづるさきいとさかから地獄の姿とやらんれいくあらんとかもわれはる湯かといとかひのきしに見へあかぬほどふ湯気立ていとこよからす谷川すくて湯わきはるすへ湯の花多く石かをり針て沸かいてあるとしたら

四月五日雨ふらす出立

実より本宮へ行く道に山へ掘ケ谷に事跡といふ山りそてかに聖明宮寺氏掘出したり掘とてあり湯の峯まて車かのりきたりて入湯させかふ出さと本宿したるすこ件所か事さすしたるかへ今の西光寺と車掘といふとかに石塔か梵字あるとしそこより十五丁はかりすて下れは本宮なりと人のかたらし

まゝかきそへ申
南陽の峯より かくれ山へかゝり廻つたる所
けき所多し 二十丁ばかりとかきはら二軒茶屋かいた
る

かきはら二軒茶屋
この所に元来し道ふたて平宮へあがれ申し 宮也 此
へらおべあり 峠 又つ 峠 とも 此 峠
り道の日記 集 て 去 り おり
又若山より 粉川見塚 迄の間の道日記 此 此 ふ る
たりうらを みるべし
(裏)
若山より 粉河廻り 見塚迄の道 日記 左 と

四月十五日 晴日 天気よ
若山の宿 板屋町 茶屋 茶屋 新 立出て 慈門 を 東へ 出
へ 中けい きの川へつきあたる あたかあ 所 あり かけ作
りと 言ふ
かけ作 寄合橋より 下 二十 や 八 軒 至 へ 三十 丁 はか
り 片側町 あり 宿 あり 左へ きの川 を 川端 松 原
や 実より 東へ 行く
此所より 岩手 坂 上 登 へ 左へ かきの川 で ちと 遠く
見 ちかく 見 川 かそ ひて あり 道 あり が 水 松 原 大 方 た
ちつゝき 事
かけ作り 二十 はかり 申き 人 家 は ふ ひ へ 左 と 小 並
本 松 はら 不 成 右 へ 山 遠く 左 の 方 山 近 から ず 遠 山 ず 遠

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03972

ホ見ヲ人家左右遠く見田畑ひろし　又五十はかりかー
て人家あり　三新屋と云有　村の内也

三新屋　左側ホ茶の木多　有り　此所人家十一　有り道ハ
ハ松原　左傳左の方三十はかり　かたくかたく　林　有り

有本村　此村の人家左ホ見て行ハ　夫より　左右せハて
十十はかり　家ハ　廿十　新り　へたて　人家見る所　有り　遠
からぬ小山　有り

一宮塚　苔山　麓中空ら　一里廿　此坂ハ松はらの中ホ
有り　左ハ加賀村を見やり　松原はるかに見ハ

八軒屋　有り村　一里十十　計　家　二里半　人家
三つ　ホ　瓦葺　多く　家　茶屋　有り　左右　十十　家ハ　廿十はし
かりホ　山を見る　高　岩山　遠ホ　見ホ　右　三十ハ　松原を見

きの川はたへ出ハ　軒屋の　涼しかたらす　新川　心ハ
一三十の　根ホ　そんホく　三十の　上ら　ホくるか　本ら　の
ト

この八軒屋のあたり　陸ハ　大坂へ　行く　北海道　より
十十はかり　下ら　ホき　夫ら　新道の　松原へ　上る　いよ
ホを　七　て　行　道　有り

左右　黒木　松の　根ホ　苔　木垣の　就く　立ける　ちる　所　有り　そ
の外ハ　畑の　かたハ　ホは　せ　村　といふ　人家　有り　そ　ホ　道
ハハ　黒木　松はら　左ハ　はかり　有り　右　山　四五十　田畑　多く　人
家　多　ケ　ホ　見ホ　左ハ　田畑　ホ　川　つたひ　人家　多ホ　夫
ら　ホ　由　及ホ　ハハ　左側　松原　下ら　黒木の　生垣　ホ　ホ
ホ　五　ホ　たて　家　有り　一所　墨　ら　の　木　ら　で　ハ　ま　へ　た　り

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

是かい時所迄ハ人ハ柔ねけれハ百姓の家居安堂ハ
茅はたけかりとこたへける
此間ハ六七丁はかりかりて銭の所あり銭はつれかー
皇塚あり
一皇塚　若山より二里の塚あり
此塚別ハ方から十丁一皇塚と見へたりとかい
ハ松ぶき壱かたへ一家ありあり一ぶ
右山一丁二丁田畑人家あり左ハ山の根まで十丁ハ
五丁田畑なく人家見ハ山へ近くからハ此間ハすべて
松原つゝきて人家ハ家を田畑へ左へ有りつれど
ハいかなる所と一ぶ事ハ深ぶき里へ茅ハ人家
屋ハ有り村堀六十丁の間ハ本道松原あり

もなけれハたゝ精つき松原とてき事ハかりこゝてハ
く
中り村　家平へ一里十五丁計　家居ハ有り
右山三五丁計田畑人家多へ左山せ五六丁あるひハ
十四五丁ハ見ハ田畑なるく人家遠迄とも有ほ家ハ
り行先の堀より松原此間ハ頭ハ有ハ者の村の中道
ハ三四丁まけり行なり
是迄若宮郡芦より那賀郡
中り村より松原五六丁目ハ国沼さいち也
馬つぎ　驛と書ハ人家ハ信濃家居多へ右山の根迄三
五丁田畑あり左へ山せ四五丁あり是より堀へ
二丁計ハく

普請なし

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

みつや村　人家之殘あり古ヤヤヨケい
新屋村　此村の口に一里塚あり
一里塚　若山家里堂より三里かり是より　右者ども
芝木松原人家まばらにて寄家やあり
右山より　ここを右山廿ヤ計人家松原おゝ遠近より見
ヤ
下新田　家居之つゝけより　至ておさき村也
上ミ屋村　人家多し出はおれ方はかりの松原おゝ立
まを出ヤヤかゝら右道のかたはら広く又かこヤ計
りのあいだ餐りそなを通ル人家之つゝき村の名
とゝい　いはゞといふ
岩手　はなの上村に一里　稀川に二里半

この岩手ハ奥羽とゝと日本ハ二所の名所かして奥
羽の岩手ハ里山殺剣をよむ　此岩手ハ里ハかりかと
とむと云
古歌
芝木
咲ぬとハいえその里のいけなをもすまぢ方ぞ匂ふ梅かえ
新物語
見ぬ人ハいかでかたらん白雪のいけその里のやさふきの花
岩手のわたり　橋ハ岩を立ちとより下ル駅者の
祝ひ　家家やあり　用者を多く頼けき　おあり　此家
ハ行とまりて　すくかヤハ　山也　左こきの川　わた
る

紀の川　岩手の渡し　川幅二十間

あたりに同じ岩手村にて人家多く川向ひとハかく
へつゝきつゝかゝる　地也牛馬を星人牛馬をかりと云
わたり船着きたる所より左の方松ばへ、すゝて行ハ
根来寺なり根来道ハ軒屋のあたり通りとも行く
道ちがへ　いつれかたかの道といふまゝ同さうしや
右山四五町　左山三十丁餘ハ見へ田畑多し
岡田村　松ばへ
右山廿丁廿五六丁ハ見　左二丁許ハ畑へたゝ、人家あ
り山ハ十七八丁ハ見根来ハ左ハ見ぬ
下すかの村　人家多し左右十八人丁ハ見　右に弥天堂
森あり

中いさかの村　竿の橋渡りたゝ　人家多し　某寺弥勒
樹ちり森のかけを通り行　右のかたまの川ぞゝ所はか
りハ見ぬ
はたの上村　紀の川、一里半
紀の川端へ古る所なり
八幡宮左ハ高り宮居鐘楼あり　松と柳と四森
やこのかけを行
けやの村　右川向ひ山の麓まゝ人家あり左田畑方
ゝかり少し松ばへ松ばへ
上垂村　人家多し右の方へたゝ山近し左り山廿廿
五丁人家遠近ハ見ぬ　右道の情木ふかき陰を分く伐き
松ばへ　柳ハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

内田村　人家所々にあり　二十軒

鄙毛社森あり

左のかた山廿丁はかり先山四五丁田畑あり

山王権現社　宮居す　鐘楼あり　大なる森のかけだ

行く

黒土　宮居より左の方山の根まて六七丁

かさかき山

横正嶽　横張山　右の方にあるなり

この二つの山を両門山といふなり　土人かたりき

かくだいの村　左前の方に小字人家田畑あり

八幡宮　左にあり宮居す　朱の玉垣あり牛

社の森のかけを通り中ほど　右の山七八丁人家あり左山

廿丁はかり人家あり

志津村　左前の方に

石観音寺　この観音門前石階たかく　その上の二王

楼門あり　かいりき

ふけだ村　角の森大なり

角の森えの風市の事かくへし　郷川村　えの風市村と

云へり

家宝

いとこえも茅のあたりあたるおりといかに故らん吹角の事

芝木村　寿月院　松家

悪さるる角の事　掛先ここもあたる　ものかはそも

村すし　郷と

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

さつる村　くゝ家多し　若山ハ五十ヨリ見左岡迄くゝ西せトは
かりヨリ見野迄を行板をかしのほり板けー　神ハ左右岡
ヨリ松三十本けかりつゝ　ちり　粉川の明神　六月十八日神
事ヨリ牛馬ハ　神奥ハ　たとふ所とそ
是迄郡奥郡をとり行　郡粉川也

すくヨリかけハ
粉川村　大坂ハ十四里　若山ハ六里　吉里ハ六里
堀家ハ六里　貞坂ハ六里　本宮ハ三里　神通寺ハ二里
所家ハ　いと大ク信者ハ多し　楽昌の地なり　家多し
牛馬ハ　ゝと
今四月十五日　陰日　天気ヨシ
南所　大坂屋長三郎方止宿　一人　山家林蔵

此所ハ大坂と云ヲ通り　名ロトー　寺の正面ヤー　ヨリよ
き宿也
粉川国府名屋也
牛馬宿屋ハ新敷かりヨリ　立敷ハ一屋ヤ　ヨリ　茶屋の
ヨリ　ヨリ　ヨリ　作りたる国府也　一本ハ　一きヨリ　銀一
枚金一枚の文くらヒまて　ちるトー也
粉川寺　号神陀洛山　根香寺
宝亀元年建立　弘法大師
坊　門前ヨリ　長六間　横二間　きゞ　ヨリ
二王門　楼門也　南向
聖観音堂　宝亀元年　仏像寺の体　寺　池ヨリ出現
たとふ伝説也

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

脇に十六羅漢

牛頭観音堂新たに彫物あり　慈恵寺住寺也　むかし一寺を公用辞

往昔の時東叡山　おさまた彫物あり也

江戸かぶりしごまーありて　こく　かぶりしと云

勝海と井　堂の前に井筒のみあり

童男観音古殿の池

上宮太子堂

阿弥陀堂　あらたに建たる堂也

順礼九所　大角堂也

本堂　南方

本尊千手観音

作者不知　御穢をかけ給ふ也　前に　かけれと　後堂に　移す

つしまりむかし　近衛家の姫　第中　とそやどんか　霊験あ

りしに　本堂のかたはらに　人かたりしかとも　善し

く　寄なるかいとまあらさりしせ

本堂もむかしは　おさかりしか　百年ほかり　前に　焼失し

其後　十五間四面の　二重屋根　法華経　堂　なりしと也

本堂の　人内陣に　入らん事を　申　けるに　内に入て

祈り　寄る

前に　仏様　あらず　法華大師の　夢に見せたもふ　阿字

と　大師　みつから　牛頭　の　かたちを　作りたもふ　ける　石

立と　ず

勝に　二十八体

内陣の　荘厳　那智　三井寺　かまさりしたりと

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

新川天明神　本堂のうしろの方宮ふ有り大伴ふ
ふたを祭つり
御台座駿の作彫刻
若狭かさしき山ふきかえて伝来の法の月をかかげ
自然山と称する堂のうしろの山かつ

玉葉集

人のよのそのかのかれふをやのかれすまぬとそ
ぬれ
ぬ
たい新川寺の不動たしける仏不動ふる事有て彼
寺ふ不住ありて侍りけるか年経て後無事ふ絶て新
川寺の前をかくるはふ　ちかつ涙を落かして
見る度ふ独なげて過る我親の流れの新川と思こ
とよ　又侍りける法師とそ夢ふ見えけるとかん

風雅集ふ
雑詠
雑詠の海を渡り行く舟あるれハ　ゆくへ知らぬ
思ハ有る人有たるまで見して新川寺ふ詣て後の子で
勝ふ　かくて　かくく祈り申とそ
ふたりくの海ふ生たる舟ふれハ　ゆくへ知らぬ
とよみて　ましてろみける夢ふ霊験の志ふ　後ふけると
かくかくつけ給ふ事かとい世の事柄ふ見へ侍るよ
しつたくまけり　ふふの霊験ふ　かそへかたし

当寺縁起曰
むかし仁和寺の那智一部の僧侶あり　其名を大友氏と云
る　夜夢で射るか山中ふ　ありあり大伴ふ　ふたり思ひて
ふりくす事を尋ねかいる瑞夢を見る事霊験ありや

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

忍岳会をひらかんとし則其所に草菴を結び仏像を安置せんやと思ふ折ふし一人の童子一寄でかりて其よりこれを作かてて室みゝ和きやとゝいふ大仏の日中を養ふ仏像を安置したく思ふやうにかれとも仏像を求めつらふと云童子曰和つたるかけれと仏師たり無かる所為室や大仏のいわく和二つの願ひあり一つゝ法界衆生のためにつゝ和子今其家の因ヨリ仕官せり其法縁の事を願ふ童子のいわく和件草菴ふ為ると一せりか仏像を刺ヨん更角件所ゝ来る事ふかれ功徳ハ出むハ日の時大仏行て見るかくの如き件草菴か入て見るか手手篠等の像おもゝ一寸ばかりなる矢を接ゝ芋像ふつかゝ寄りて帰行ス

四月十六日雨を立て法日文貞上一新川寺の門前左ゝさゝ一て

いわく

ゝのかけ新　左山ニ十七ヒ五丁左ニ十七八ヒ四町屋し

ふるかだ　左右前ふ日し人家遠近ふ見ヨカ多ゝ一つ

登り行くかたゝ

志ヶ新　坂道廿五丁

きのふ又一面門山ゝ多ゝ一ふ見て右く程の水の志ヶ

ヶ合たる下陸をゝ下けかりゆきぬけ

志の丶宮　左ヶかた一丁ばかりふ見下ス宮ふ有り

さくら池　右ゝ方一大なる池ふり南新陸棒形て住

らゝ一ゝ後ふと云

左住の川面門山を遠ふ見る夫より さくら池ふそ五行

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

東へ三丁ばかり行て左右に後家と見えし婦つたひに参りぬ

志の峠　　松ありて人家あり

牛山より一丁ばかり行て長山三郎が見る世家より此つたひに茶屋あり茶を喫つたひて

雑賀新屋敷　一ケ所有志たれば茶こ下りあり

下れば茶屋あり

稲荷社（とべ出る）　新川より家二、三里　大木こ一里

牛窓へ茶会のせまき地あり　人家少し茶屋多し

かけを過て左へ下り行て右へ上り左へ大岩

合たる家を伝ひと象潟の様あり

行れば一ノ谷の社見出す　すべて松多し

熊野谷　　おとし谷

右田畑へたて二丁ばかりあれば人家あり家居多

し左へはげ山の岡山へ近き人家あり

四谷坂ノ社　　人家多けれとも三四丁へたて右へ有田畑

ゆるく道の下り家あり　右へ岡山ちかし

四谷大くぼ社　新川より四里半　見坂一里半

茶屋あり　大木より茶屋茶屋こ新しかし　中村の

人家へ左の方へ入たる所あり　右田山立て人家

中田物売し　右岡山おかし　田はた有　高き山へ二三里

遠くなりたり岡山へ　すべて多き家也　鎌木見れかして

右へ入へと多し　右へ池有　所を岡へ　恐れへ郷さかへ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

から
是より新はら宿
新家　白ふかし　左のかた西の海に面す民家あり
より海志たいくふちかくなりて牛辺より石道多し是
路を通り左へ人家左の家多し伊き道の西ゑ道北へ
鶴長宿へいだす
地蔵堂　見附こ十さハ丁ト三
此村ふとさ五拾町ばかり地より　こゝ天上より枝わかれて
見すかす村ばかり左へ海十さハ丁ゆ見ゆ
村けし　長五間幅に天井
是迄伊勢部郡そより京都日根郡
堂より右へ下りて茶水で休へ　川で大和ゆ入る又
昭つたなみのほり下りすゝ事志げし
大鳴山不動道
右道のかたはらゆ不動堂所ありそこより大鳴山へ
十丁あるよし又へ右かけをくゆかけ茶水の語は所
さ十八丁行けゆ
大本　大くぼ村へ一里半　人家多し富家在り
滝大明神　右こあり　宮長よ
右山の根迄二丁はかり田畑あり右山ゆ沿ひく道也是
より広くき山の向を行左ゆ池あり又右ゆ池あり土は
しで塚ゆ
牛辺より高の用心として田畑の外堤のごとく土を積上た
る所いこゝかしこゆ多し

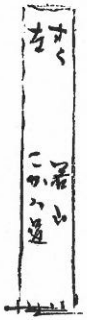
松はら長さ十一二間ばか
左右に山ありて松ばかりなる所にて
つちまる村　人家多く茶屋あり
おけはれて左右に茶屋多し左右にはげしくかためつらしき
夫よりすくて海多し左右にはげしくかためつらしき
岡山ありて数町ばかり遠近に見る左の方に岡山のあい
だより海見る所あり
夫よりとかりけり岡山の間を通る左右にげりたり
わたれば左右に竹あり
近茂左おはぢ村
女か二作松の大木あり
近茂左寄田村　田はたたろし

近茂　こきの川　橋長十一間　わたれば
はたけ村
わぢ村　人家多し海ちかし田畑多し
是迄日根郡郡より南泉郡
こきの川を郡境といふ一里くらいあり　かいつれか是
かれさし　実より真坂　標石の所へ出て此へ入
今十六日後日天気よく
橋本屋佐左ヱ門方止宿よき宿也
○あくれば
四月十七日雨ふりはれと出立て日出度薩波の里ゆきかへ
るか住よりとり言て心よくはれたり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

是より おくハ 我ゆかざりし道なれば 国しるべ しまぶ
する時 おくハ ふるき人々の書てのこし置たるを ひろ
ひて記しつけり

一 見塚より 若山へ すぐ道
一 方至 城跡
一 八畳山 城跡
一 大迫より 海道 おなじものへ ものの
宇ナミていふや
見塚より 若山へ すぐ道ハ 五八里
見塚の 野を出て 左へ 標石あり



宇より 七町ばかり 行サハ
沢村 永久橋 西南へ わたる 土けー 也

こで川 土けー 城中ハ 家屋二軒あり
たこ 家屋と いふ
鶴けら 標石あり
是より 左へ おく
佐野市場 見塚へ 一八丁 宇より 谷松へ 一里半 間松原
あり 道の東
峠通明神あり
谷松 ちしゆ へ八丁
かーゆ 侯道へ 廿丁
侯道 山口へ 三里
板あり 作象と 境
山口 山中へ 一里半

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03972

山中　巻山、一里半
牛岡板橋あり右手あり
巻山、入

六里新行道
六里大門より巻宮、凡十七里半也是を小辺路と云
（又より十六里強）
六里大門　大滝村、一里
昭くる坂　道半山の峯を通る杉檜樅等の場大木也
松入さす深山也
川はあり大滝川と云
大滝村　宿あり　水ヶ峯、一里

十四丁行道二の右へ行くへし第オ天村と云
水ヶ峯　茶屋あり宿する大般、二里
村はつれみ沼法の清水あり十四丁ばかり行道二の左へ
行くへし
たがらは　家一軒あり
谷川の前ハ茶屋一軒あり又五六軒あり是より登り
難所也
大般　宿二三軒　こへ　こ里半　かみこや
、半里
此間おはこ坂此辺の大師の第五の檜の大木二本あり
第六屋　こへ　こ里マニ里と云
こへにし　宿あり　水かえ、半里

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

水かゝ　　松平二茅屋

大師堂一流る水あり　宮あり　北向し　東へ流れ十

法川也五十年鎖とて殺生禁断あり

松平　　神の川へ茅屋

又一くの本ふい所たゝらと書けりそれはやきゝ山やま

りゐるか　茶屋の前みな二つあり　大樣の宮こしかけ

流る茶屋り道二十ばり左くまの道古せのみ道北向

大川あり舟添し左の方ゐ三位中将屋敷の茅あり牛下

り坂長けあゝく殺所かり

神の川　　高ゆあり松むかい二丁計行茶屋ありきよ

茶也川向ゐ松ゆり松のせと云川ゐつき行い宮五六軒

有川ゐ舟添し

ゐゝら坂　宮あり又一くの長たる本ふい　三流なとあ

りいつれがきいたかゝすゐ

ゐゝら坂　五十丁のぼる　日蔵

ゐくら坂　ハ十丁下り　殺所かり茶屋ち

流きり坂　宮ち　上矢倉とり云

矢倉　　下矢倉と云　宮ち　柏崎へ茅屋

中むら　　宮ち

もゝ　ゆけ茶屋と云茶屋を取りと云　天神の松と云は

し是ゝ殺所

たゝむら　宮ち

柏崎　　宮ニ三軒　ゆるいもと、二屋

きよとれ道ゐし尋ぬゝ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

十津川村　鎖ヒナ五本ガ保より預り居る元素五十本
ありしか故有て五本い能登へ刀と由緒有て真象と云
谷川　ばーかり
是ハ中かの渡村　河ハり有り
又谷川　舟渡し
柳元　七色村へ四里
そこより長ク一坂二里登り二里下る一里登りたる所ハ
山ロの茶屋有り是より　峠迄茶屋ハ一下り口林下ハ
茶屋二軒ヒり
七色村
本宮へ一里半
此所人家多し

又一人の主の云たる事ハ柳元よりは
て有り五十丁登り五十丁下り柳元より
十丁計りハ松の茶やヒ四五丁行

ハ三方路門茶や等ハかりハ六十
丁半程　本宮改書
柳元より峠迄五十丁下り坂ハまきれ
道ありよくハ行かず　左へ下り坂ハ
舟渡ありて道ありまして所紙屋方ハ出
り
八鬼屋谷　茶屋有り
八鬼屋谷より郡拝ハ舟渡しハの
るハ陸路ハ孫の助ほそ道一里
下ハ大川者てとして十丁ハ舟渡
より上りて三軒茶屋迄ほそ道
也是より苦山街道ま道十

是より山道ハて
所ヒり
真ヒれへ
是大辛川也

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

鬼かい橋
大鬼
有り紀三井寺原左へ本宮道
三軒茶屋　宿ヤー
本宮ニ十ケ村

高野大門より　本宮、十七里半　十六里餘と有事歟
不詳

八鬼山越　山田より新宮、三十六里半余
熊野参詣道
山田　川端、八里半
御とまり
川端　有馬　宮川、舟渡
田丸、一里半

八たの、原　之は神明の馬場と云
小松原也

田丸　新田
田丸宿駅　原、一里
往昔家臣之邸備後守殿城
界中真ニ行ハ奈良街道也なり、ヨりハ熊野
方面道也

9の村
かの、松原　東ハ山ちかし
かの村　茶屋ニ寺あり
松原
原　宿ヤ　大淀、一里半

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

多賀郡郷中村ヨリ

石の大辻　大日堂あり

おりか村　ちりふ大明神あり　上り五十丁下り十四町

とつき郷

大浦村　富あり　坊ろ、一里半

千代村　柿原村

西蓮寺　千手観音聖徳太子作

杉横ノ見事成森あり

谷川　芝浦

とち原　富士しあり　一里半、一里半

熊ヶせ村　富士しあり

上猪村　富士しあり

下猪村　同断

栗生　富士　みや、一里

おらろ村

みこせ　富あり　巻後、一里

観音堂あり　行基作

みせり　舟渡し

中川あたりてよき、富四五軒あり

三瀬川村

みせ坂　上り八十下り十二丁程急あり

長命郷

野坂　富あり

清原太郎宅ヶ社

宮田村

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

せべか村　長者が原より
はぜ坂　上り二十丁下り五町
かちい村　谷川　歩渡り大水にて左方まハる道
あり
あ里市　相望一里
城番あり　城ハ十行有て深あり
ふがかの村
相原新田　川あり　歩渡り大水の時ハ右へ道あり
相原　宿あり　こま一里
川あり　ねちわたり
かいとーり村
長望こや村　宿ナシ　川あり

ざき村　宿ナシ　あり
こまま　よき宿あり　川あり　歩渡り
ふとの村　間ちへ一里
間ち　川あり
宿あり　長畑一里
大法村　宮あり　宮の外ハ小川あり　歩渡り
梅ヶ谷村　宿あり
つか峠　上ノ三ヶ下り十八丁急ぜ
峠ハ栗畑ヨリ代官所者ヶ紀州の境ぜ　田もより間
はまヶ二里
かたかみ村
紀州牟婁郡

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

かがう村　家百ケ　長島ワ　戸数

三浦、二星湾ニて陸ち家有

牛ぶせ　本の茶屋ヶ谷星の船有日和ヤ

経所ヨリ

一石坂　上下共五十丁

峠ニ茶屋あり　島一目の下見　景ヶ

古星村　家ヶ

たうぜ峠　上下共十七丁、急ヶ峠ニ茶屋ヨリ

たうぜ村　家ヶ

三浦坂　上下共十八丁　急ヶ島く見えて景よ

ト

三浦　家ヨリ　長浦、一里

けんかい村　上下共十四五丁ハ、石ヶ多て急

ヶ峠ニ茶屋ニ新ヨリ

馬場　茶屋、一里半入ヒホ小川ヨリ家有

鳥井つき村　家ヨリ

上星村　家ヨリ　安左ヶ有

中星村　家ヨリ　入ヒホ川ヨリ

ゆるつ新田村

新田村

粉の本　界実ヶて家有

所家ヶてよき家ヨリかあし、一星半

川二つヨリ

間新坂　上下共ヶ五丁　茶屋山ヶて経所ヶ峠ヶ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

茶屋あり

岩屋観音　峠の左のかた

おかし　三鬼、三星屋家あり　宿あり　出口小川

あり　物をわたす

ゆこ浜村　宿あり　川あり　歩渡り

かわーより　半里行ハ八鬼山ふもとの禁。十二

丁目茶屋あり

八鬼山峠　上り五十丁下り三十八丁　二十八丁

目ふもと茶屋あり　三十一丁目より上ハ石段わて難の

外急峻所也

八鬼山日輪寺峠より二丁別ふもとあり　八鬼と云海見

、下り段石ハ難所也

赤土坂　三十丁許下り　茶屋あり　是より　廿餘

丁下り石段難所

三鬼　宿あり　海辺也　曽根迄二里

牛所より　曽根迄内海ふて一里の船渡しあり　舟ふ

乗て　宇造ゆ　歩行ハ難所也　峠三つふあり

曽根浦　宿あり　浜村あり　二鬼、一里八丁

是より　二鬼島、州山村難所也

曽根次郎坂より　廿九丁石垣急あり　峠ふ茶屋あり

南海見て船場也

曽根次郎坂下り　廿丁石垣急あり

二鬼島　ゆたーかハ、一里野中ふあい川とて海

り宿あり　廿丁社ハ行

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

大かけ坂　上り十七八丁下り十七五丁峠より五丁下り茶屋あり下りい急なり

新森　宿あり　さだすゝ一里入口に川あり

橋かゝる

大こうき坂　上り廿五丁下り廿五丁峠に茶屋あり

ゆうき石橋

はだす　大とまり、一里　宿不自由

此間すこぶる山道十五丁美より上り十丁峠に田村丸建立御堂あり十丁計り下り南の麓に城北の方に見る山西の大廣ごたいとてあり

大とまり　宿あり　本の木、半里

出口に海の入江の川あり舟渡

本の本峠　上り十二丁下り十餘

峠に茶屋あり　ふとまりと云事見

本の本　有馬、半里　所実宿あり湊也

此所濱に鬼ヶ城と云大岩あり

是より有馬迄新道ありてあるきかたし

中の大岩

有馬　宿長数　ほたわ、二里半此間松原也

左本宮道　右新宮道

花岩屋　伊勢坊尊の御ゆゑ大神を祭りし所と云

大般若経を納し古跡也

玉子の岩　熊野権現御鎮座の

此日出神社伊勢坊尊を祭り書き所と云

原本は岩屋、玉子岩ゆえ本の本の大の御ゆえ新宮

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

志けら村　家左あり

志けら川　舟渡し　舟わたしを渡る道ハよくあ
たしわたらず行道ハ砂演孫の外歩行しがたし

いちぎ村　百ゆしあり　川有り

志けら川と同断舟わたし漕りてあく道よく中間

小松原

ふたらず川舟渡し志けら川と同断

あたち　箱ゑ。数　家宅ハ二星半

川あり舟わたし前ハ同し中間松原也

かゝり也村　中間松原

井田村

保田村

こハの村　百ヶ

鶴屋村の
ハ村

鳴川村　百ヶ

吉ゑし川　九星八十の川末也

舟わたし一人前ハ二十五文ヲ、本ハ本より中所
まての演辺ゑ十星の演と戸演の境碑也。

新宮ハ家　新宮ハ田より九ニ十丈星半餘

大辺路　おほへちのちの宮
ゆゑしよあ

田辺より那賀まてゑ外の演ハ大辺路より九十四
里

田辺　朝来、一星半　朝来　富田、一星

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

富田　安居、二里
同参見　和深川、一里半
見来津　江住、二十丁
里野　和深、三十丁
田子　江田、半里
田辺　二部、一里
二色　園川、廿丁
姫浦　伊串、廿五丁
神川浦　古座、十丁
津荷浦　一色原、三十丁
浦神　荘村、一里
和田　市屋、十丁

安居　同参見、一里半
和深川（発荷）見来津、一里半
江住　里野、廿八丁
和深　田子、半里
江田　田辺、半里
二部　二色、十丁
園川　姫浦、廿丁
伊串　神川浦、廿五丁
古座　津荷浦、十七丁
一色原　浦神、一里
荘村　和田、十丁
市屋　二河、一里

二河　橋川、十丁
湯川　天満、半里
演舌　那智、一里半
田辺ヨリ瓦廿四里也

橋川　湯川、半里
天満　演舌、半里
那智

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

川井不閑子先生寛政十年三月無師詩、同伴の林信章道の託
也則川井より借て寫し畢也

寛政十一年、年六月吉日　影馴亭

右後寫の上、原本岡書館へ返納畢也

昭和四年十二月　十九日　岡岡　春湖

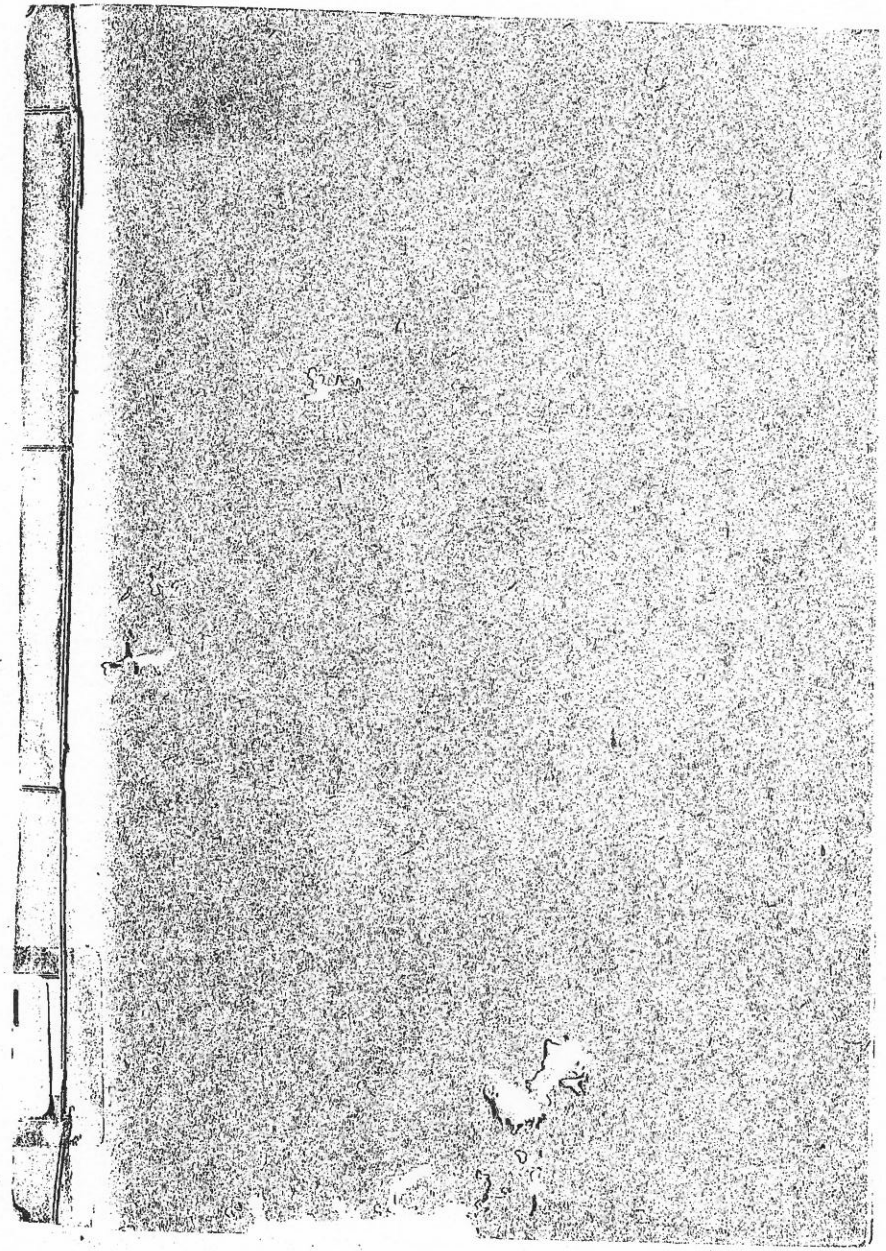
和歌山県立図書館蔵寫本ヲ後寫ス

昭和七年七月　十八日　中根　十郎

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03972

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03972

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03972



県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03972